

(2) さくら学級算数科学習指導案及び反省

第6学年 さくら学級算数科学習指導案

平成26年10月22日(水)5校時

指導者 高坂 昌子

1. 単元名 時間のしくみを調べよう「時刻と時間」

2. 指導観

本単元で扱う「時刻と時間」は、学習指導要領の第3学年 B 量と測定の(3)時間について理解できるようにする。ア秒について知ること。イ日常生活の中で必要となる時刻や時間を求めることと位置付けられている。第2学年では、日常生活の中でも、分の単位までの時刻を学習してきた。これらの既習事項をもとにして、本単元では、時刻と時間の意味とその求め方、1日の時間、短い時間について学習し、日常生活の中で時刻や時間を用いる能力を身につけることをねらいとしている。

本学級の児童は、真面目に学習に取り組むことができる。数と計算領域では、万の単位を読むことや、位の表に入れて書くことが少しずつできるようになっている。計算では、簡単な数の加法や減法など、暗算は難しく筆算でしている。3位数の加法と減法、3位数×1位数、2位数×2位数、除数と商が1位数の除法の計算の仕方を理解している。

本単元の時計に関して、日々時刻を読むことができています。日常生活の中で、「今の時刻は？もうすぐ始まるね。」や「〇時に始まるので〇分には集合しないといけない。」など時計を意識しながら生活するようにしている。また、ストップウォッチを使って、計算の時間を計ったりもしてきた。時間については、簡単なのであれば、時計の目盛を数えることや、計算などで理解することができる。しかし、場面や即座に答ええないといけない時などでは、的外れな答えを言うてしまうことがある。また、日常生活や学校生活の中で、時間の設定や決められたスケジュールに合わせ、行動しなくてはならない。そこで、時計に関して困らないように、3学年の「時刻と時間」の学習を設定した。

本単元では、日常生活の中で具体的な場面を想定して時刻と時間の意味や時間を考えていけるようにする。また、児童の理解を促すために、数直線などを十分に活用して、連続量であることを意識しながら学習できるよう指導していく。さらに、具体的な場面を提示しながら、学習したことを毎日の生活で活用していけるようにしたい。

3. 単元の目標

時刻と時間について理解し、それらを日常生活で用いる能力を身につけるとともに、簡単な場合について時刻や時間を求める計算の仕方を理解する。

4. 単元の評価規準

○関心・意欲・態度

時計や時刻、時間に関心をもち、日常生活の中でも時刻や時間を使い分けようとする。

○数学的な考え方

時間も長さと同じように、量としてとらえ、その表し方や単位などについて考える。

○表現・処理

ある時刻から一定時間前後の時刻や、2つの自国の間の時間を求めることができる。

○知識・理解

1時間＝60分 1日＝24時間 短い時間の単位「秒」

1分＝60秒の関係を理解する。

計算による時間や時刻の求め方を理解する。

5. 指導計画（全7時間 本時3／7）

時	目標	学習内容	主な評価規準
2	時刻と時間	・「時刻」と「時間」の意味を知り、簡単な場合の時間を求める	(関) 時刻と時間を区別し、日常生活の中で両者を使い分けようとしている (知) 1時間＝60分の単位関係を理解している
2	時刻と時間の求め方	・ある時刻から何分後(前)の時刻を文字盤や数直線図を手掛かりにして時間を求める ・時刻から時刻までの時間を文字盤や数直線図を手掛かりにして求める ・2つの時間を合わせた時間を求める	(表) ある時刻から一定時間前や後の時刻を求めることができる
1	1日の時間	・「午前」「午後」の用語を用いて時刻を読む ・1日＝24時間の関係を理解する ・「もの知りコーナー」を読み、昔の時刻の表し方などへ興味・関心を高める	(知) 1日＝24時間の関係を理解している
1	短い時間	・1分より短い時間の表し方について考える	(関) 活動を通して1秒や1分などの量感を身につけようとしている (知) 1分＝60秒の関係を理解している
1	まとめ	・「確かめよう」に取り組む。 ・「もの知りコーナー」を読み、24時制について関心を持つ	(知) 時間に関する単位の関係について理解している

6. 本時の指導(本時3/7)

①目標

- ・ある時刻から一定時間前や後の時刻を求めることができる。

②評価規準

(関)時計や時刻、時間に関心を持ち、日常生活の中でも時刻や時間を正しく使い分けようとしている。

(考)時刻が数直線上に表示できる有用性について考えている。

(表)ある時刻から一定時間前や後の時刻を求めることができる。

③展開

	学習活動	指導上の留意点 支援(・)評価(□)
導入	1. 前時の学習を振り返る。 2. 本時の学習のめあてを確認する。 ある時刻から何分前や後の時刻を求めよう。	・日常生活場面で、数直線や時計を使って前時の学習を想起させる。
展開	3. ㊦の問題を読み考える。 ・9時40分から30分経った時刻の求め方を考える。 ・分かっていること ・求めること ・時刻と時間に分ける。 ・模型時計を使って求める。 ・線分図で調べる。 ・㊦の時計に針を書く。 ・応用問題を解く。 ① 1時45分から30分後の時刻を求める。 4. ㊧の問題を読み考える。 ・10時10分の20分前の時刻を求める。 ・㊦の時計に針をかく。 ・応用問題を解く。 ・9時30分から40分前の時刻を求める。	・文をしっかり読み、時刻と時間の違いに気付かせる。 ㊦ 時計や時刻、時間に関心を持ち、日常生活の中でも時刻や時間を使い分けようとしている。 (発表) ・数直線表示の意味を理解させる。 ㊦ 時刻を数直線上に表して考えようとしている。 ・模型時計を手掛かりにさせる。 ・時計の文字盤や数直線図を手掛かりにさせる。 ㊦ ある時刻から一定時間後の時刻を求めることができている。 ・模型時計を手掛かりにさせる。 ・時計の文字盤や数直線図を手掛かりにさせる。 ㊦ ある時刻から一定時間後の時刻を求めることができている。 (ノート)
まとめ	5. 感想を書いて発表する。 6. 次時の学習を知る。 7. 授業評価表を書く。	□ めあてに沿った感想が発表できている。

④準備物 模型の時計、ワークシート、数直線図